

高次脳機能障害（特に数概念や計算の障害）

講師 永友 真紀
Maki Nagatomo

現在の研究テーマと内容

- ・ 健常児における1桁同士の足し算の獲得過程
- ・ 発達性計算障害例における数概念や計算の障害

これまでの研究成果と今後の展開

健常児における足し算の獲得過程を明らかにすることを目的に、足し算で子どもが使用する計算方略と反応時間の変化を学年間で比較しました。足し算を繰り上がりの有無に分けて、計算方略と反応時間を1年生、3年生、5年生で比較した結果、繰り上がりのない足し算の計算方略は学年が上がると検索に変化し、繰り上がりのある足し算の計算方略は検索と分解に変化することが判明しました。また、反応時間は1年生から3年生で短縮し、3年生と5年生では差がないことが明らかとなりました。現在は、低学年（1年生・2年生・3年生）での獲得過程や獲得に関連する認知的要因について検討を行っています。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

高次脳機能障害全般に興味をもち臨床や研究を続けてきました。人間の脳には色々な機能があり、私たちはその機能を日常生活の中で、ほとんど意識することなく使っています。講義ではみなさまと一緒に、高次脳機能障害について学び、「へえ～」「なるほど！！」と思えるようなやディスカッションができればと思っています。